

キャリア教育だより

平成28年10月31日

第63号

高校教育課

平成28年度医師を志す高校生支援事業

医師会講演会(1・2年生)、病院見学会(2年生)

10月22日(土)10時より仙台第一高校において、「医師会講演会」を、13時30分より大崎市民病院において「病院見学会」を行いました。「医師会講演会」には、県内の公立私立高校13校から90名(1年生75名・2年生15名)が、「病院見学会」には引き続き2年生15名が参加しました。



午前中の講演は、最初に、国立病院機構仙台医療センター研修医の熊谷裕美先生から「医師を志す高校生の皆様へ」として、医学部受験の苦労を、浪人を経験したからわかること、医学部での学生生活や研修医生活についてお話をいただきました。

次に東北大学病院卒後研修センター助教の菅野武先生から「医師にできることは何か～東日本大震災を経て考える～」として、南三陸町志津川病院に勤務していたときに東日本大震災で被災した体験をお話して、医師になるまで、なってから、そして被災後の経験から、最初は医師の仕事は病気を治すことと考えていたが、なってみると他の仕事が意外と多いということや、震災時には一人ではできないことに気づかされたことなどをお話いただきました。



最後に、宮城県医師会副会長で船岡今野病院院長の佐藤和宏先生から「地域治療とは何か～開業医26年間の経験から～」として、高校時代は文系志望の自分がなぜ医学部に入ったのか、その後の専門の選択などでも何が正しかったのか、今(64歳)になってもわからないので、高校生(18歳)で人生の正しい選択は何かと悩んでも仕方がないということや、26年間地域医療に関わって地域医療が医療の原点であると感じていることなどをお話いただきました。

午後の「病院見学会」では、大崎市民病院院長の並木健二先生より概要説明があり、初期研修医2年次の河端真広先生と臨床研修管理部長の吉田昌弘先生より講話をいただいてから施設見学をしました。



第6回科学の甲子園 —みやぎチャレンジ2016—

10月22日(土)9時より宮城教育大学を会場に第6回科学の甲子園の宮城県予選会が行われました。今年は、県内10校から14チーム100名が参加しました。この大会は平成23年度より、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が創設し、全国の科学好きの高校生が集い、競い合い、活躍できる場として、科学好きの裾野を広げるとともに、トップ層を伸ばすことを目指しています。理科・数学・情報における複数分野の競技を行います。宮城県勢は過去5回の大会では、毎年異なる学校が予選を突破して全国大会に出場しています。特に第4回大会では仙台第三高校が「実技競技②」の第2位「学研賞」を受賞しています。今年の宮城県予選会の結果は、下記の通りとなりました。県代表として全国大会に出場する国立仙台高等専門学校広瀬キャンパスの皆さんのご活躍を期待します。



総合順位	学校名	部門別1位	学校名
第1位	国立仙台高等専門学校 広瀬キャンパス	筆記競技	宮城県仙台第一高等学校 Aチーム
第2位	宮城県仙台第一高等学校 Aチーム	事前課題	国立仙台高等専門学校 広瀬キャンパス
第3位	宮城県仙台二華高等学校 Bチーム	実技競技	国立仙台高等専門学校 広瀬キャンパス